

平成28年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ

政策分野1 田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野1では平成28年度は44事業を実施し、A評価が21事業、B評価が22事業、C評価が1事業となりました。

農業分野では、農用地の利用集積による農業生産基盤の強化を図りながら、意欲と能力のある若手就農者の育成確保や幻の寿司米「ムツニシキ」をはじめとする農産物のブランド化、トップセールスによる販売強化などを推進しました。具体例として黒石米活用検討実験事業により寿司米用途について他品種との食味等の比較検証やアンケート調査を実施したところ、高い評価を得ていることから、作付け拡大と販路開拓を行うとともに、次年度に向けた種子の確保作業を実施しました。農業分野での成果として農地中間管理事業による農地の累計集積面積は30haを目標としていましたが、実績は150.8haであり目標を達成しました。

また、六次産業化・農商工連携を推進して地元の農産物を使用した加工品の開発・販売など、新たな食ビジネス創出への取り組みを支援することで、「食」を始めとした新たな産業の基盤づくりに努めました。具体例として黒石市六次産業化・地産地消推進事業では、アスパラガス・ニンジン・トマト2種類の試作品スープ4種類を完成しました。今後はターゲットとなる客層や販路等の検討を行います。

工業の分野では、地域力の向上と雇用の場の確保に向け、より一層の活性化や新たな産業開発等を促進に取り組みました。具体例として企業誘致・留置活動事業では、青森県企業誘致推進協議会等と連携し、県外へPRするなど企業の誘致に取り組みとともに、黒石市誘致・進出企業懇談会を開催し、情報共有や各企業の課題を確認するなど今後の活動の情報を収集しました。工業分野の成果として製造品出荷額は46,417百万円を目標としていましたが、実績は平成27年度末で55,477百万円であり目標を達成しました。

就業者支援の面では、新しい分野にチャレンジする起業家を積極的に支援するとともに、就業者が健康で快適に働くことのできる環境づくりを支援し、雇用機会の確保と勤労者福祉の充実に努めました。具体例として移住情報発信事業（人口減少対策事業）では、成果として県内外の先進地視察による情報収集を引き続き実施し、課題であったパンフレットやホームページを作成しました。

そのほか、全ての産業において企業等が求める人材の安定供給に努め、地域経済の縮小の克服に取り組みました。具体例としてビジネス客宿泊施設誘致可能性調査・研究事業では、成果及び課題として宿泊施設の収支計画を作成しましたが、宿泊施設の誘致は現状では厳しいことから、旅館業法の規制緩和など宿泊施設建設を取り巻く環境に変化があれば、その状況に応じて今後も引き続き対応します。

政策分野 2 田園観光産業都市黒石市への新たなひとの流れづくり

政策分野 2 では平成 28 年度は 33 事業を実施し、A 評価が 24 事業、B 評価が 9 事業となりました。

観光・物産の面では、歴史と伝統を生かした観光や物産にさらに磨きをかけるため、温泉郷などの観光地としての受け入れ体制の充実と、若者も集い楽しめる魅力あるまちづくりの推進に取り組みました。具体例として中野もみじ山「小嵐山」改良事業では、昼には紅葉床こうようゆかという名称で栈敷席を設置し、中野川を臨んで色づいた紅葉を眺めながら食事を楽しむプランを実施しました。夜間にはライトアップし「光のファンタジー」で夜紅葉を演出したほか、よさこい演舞の出演や、フォトコンテストを実施しました。天候に恵まれず、見頃も遅くなったことから前年に比べ来場者数は減少したものの、平成 28 年度は 9 万 4 千人を超えており、夜間の来場者や外国人観光客は増加傾向にあることが成果としてあげられます。黒石市中心商店街空き店舗対策事業では、中心商店街の空き店舗に出店する小売業者等に対して店舗の改装費用の補助 3 件及び賃借料の補助 2 件を行い、中心商店街にぎわいを取り戻すとともに市街地の活性化を図ったことが成果としてあげられます。

また、古い町並みを大切にし、来訪者が癒される空間の創出に努めました。中でも、平成 27 年に再生された「松の湯交流館」を有する中町こみせ通りは、国指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などを含む伝統的建造物の維持継続を図りました。具体例として景観形成事業では、回遊環境を整備するため、公衆トイレの一部を洋式化する改修工事を行いました。松の湯交流館事業では、黒石ねぶたまつり・黒石よされまつり期間中において、松の湯交流館の開館時間を延長し祭りに合わせた館内のディスプレイ等を実施するとともに、通年でイベントを開催し集客増を図り賑わい創出に寄与しました。さらに、館内やまちなか情報を提供するため、WEB サイトを構築しました。

さらに、歴史的・文化的に貴重な文化財については、適切な保存と活用を図り、黒石よされなどの伝統芸能を後世に継承するとともに、自主的で個性豊かな芸術・文化活動を積

極的に支援しました。具体例として黒石よされ事業では、市民総参加による黒石よされを目指し、参加 33 団体、踊り子 3,600 人参加と伝統継承の事業の目的を達成でき、観光客数が 76,700 人であり、市の活性化にも貢献できました。一方で祭り自体は成功でしたが、寄付金・協賛金の減少により、厳しい運営状況にあることが課題となっています。

政策分野 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野 3 では平成 28 年度は 35 事業を実施し、A 評価が 27 事業、B 評価が 5 事業、C 評価が 3 事業となりました。

子育て支援の面では、子どもが心身ともに健やかに育ち、子どもを産み育てる市民が、喜びを感じることができる生活環境の実現に向け、教育・保育の確保、妊産婦・乳幼児・児童の健康確保、要保護児童への対応を基本目標とした黒石市子ども・子育て支援事業計画に基づいて、多面的な子育て支援対策を総合的に推進しました。具体例として乳幼児医療費給付事業では、就学前児童の医療費を無料化し、成果としては現物給付により入院 190 件、通院 29,792 件の保護者の負担軽減を図りました。相談・指導・支援、訪問事業では、平成 27 年 10 月 15 日に開設した子育て世代包括支援センターと連携しながら不安やリスクのある妊婦に対し継続支援を実施し、必要時には医療機関等関係機関との連携を図り、包括的な支援及び訪問を実施するとともに、乳児のいる全家庭を訪問し、育児不安を傾聴・把握することにより産後うつや虐待予防を図り、妊娠期からの継続した支援を実施した人の割合は目標値の 40.0% に対して実績値は 96.6% であり目標を達成できました。

学校教育の面では、将来の本市を担う人材の育成に向け、「個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育」のスローガンのもと、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視し、特色ある教育活動の推進をはじめ、教育環境の充実のための学校適正配置と併せて、子育て世代から要望されている学校給食では、小学校完全実施に取り組みました。具体例として算数・数学「UP する」事業では、市内各小・中学校に計 9 人の算数・数学の指導員を配置し、チームティーチングによる児童生徒一人ひとりに対してきめ細かな指導を行いました。小中学校の適正配置推進に関する事務では、黒石・六郷・東英中学校統合準備委員会を 5 回開催し、3 中学校の閉校記念式典も計画通り実施しました。また、六郷・上十川小学校統合準備委員会において、統合校名を「六郷小学校」に決定し、黒石・中郷・北陽小学校統合準備委員会において、統合校名を「黒石小学校」に決定し、牡丹平・浅瀬石・追子野木・黒石東小学校統合準備委員会において、統合校名を「黒石東

小学校」に決定しました。成果としては、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の結果から、小学校 6 年生と中学校 3 年生の学校に行くのは楽しいと思う児童・生徒の割合はそれぞれ実績値で 87.7%、81.4%であり、どちらも目標とする国同水準を達成しました。

社会教育の面では、生涯にわたり健康で明るく活みなぎる地域社会の実現に向け、学校教育と連携を図るとともに、市民同士のコミュニケーションを深め、誇りを持ち、家庭や地域での学びを生かした人と人とのつながりと発信していける人づくりを大切にする社会教育の推進に努めました。具体例として、リーダーまるかじり体験塾では、成果として地域や学校でリーダー的な役割を担っている青少年延べ 70 名を対象にコミュニケーション能力を高め、様々な体験学習をすることにより、自主性を養い、リーダーとしての資質向上を図りました。銀河宇宙探検隊では、延べ 81 名が参加し、自然環境体験学習（天文教室）を開催することで自然に対する興味や関心を高め、自らの将来に夢や希望を持つ想像力豊かな心の育成を図りました。

政策分野 4 健康都市宣言に基づく健康づくりと「黒石力」(=コミュニティ力)を活かした地域づくり

政策分野 4 では平成 28 年度は 24 事業を実施し、A 評価が 15 事業、B 評価が 8 事業、C 評価が 1 事業となりました。

健康づくりの面では、市民がいきいきと暮らすために、健康診断等の受診率の向上など、地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指した施策を展開しました。具体例として黒石市健康マイレージ事業では、健康づくりの促進とがん検診受診率向上を図るため、健康づくり事業にポイントを付与し、景品抽選応募者数は増加しましたが、各健診受診率について、目標値を達成できていないため、事業の内容・実施方法について見直しが必要です。

スポーツの面では、人口減少社会においてスポーツ人口が減少する傾向にはありますが、積極的にスポーツを取り入れ、喜びと感動に満ちたスポーツの振興に努めました。具体例としてレクリエーションスポーツ実技講習会では、スナックゴルフとユニカールを通して、中弘南黒平地区スポーツ推進委員の技術向上と委員相互の親睦を図りました。学校施設開放事業では、市民の健康増進、生涯スポーツの普及、技術向上、青少年の健全育成のため市内スポーツサークル活動の場として学校体育施設を開放し、成果として延べ利用回数 1,880 回、延べ利用者数 33,096 人の利用がありました。

協働体制の確立については、市・消防署・各地区協議会・市民・市外在住の本市出身者等が、それぞれの役割分担を明確にし、ともに協力し合いながら、これまで培われてきた地域コミュニティを活性化させ、地域のことは地域で考え行動する住民主体のまちづくりを支援しました。具体例として地域力（黒石力）向上事業では、成果として4回の地域組織力向上研修会を通じて地域のリーダーとなる人材が地域課題や生活課題を解決できる力を養うための講座を実施するとともに、4回の公民館等職員研修会を通じて公民館機能を高める手段として、地域コーディネーターの役割を担う公民館職員の資質向上を図る学習会を実施しました。黒石市ごみ減量化事業では、地球温暖化防止や自然環境の保全、さらには資源の節約が強く求められており、ごみの適正処理及び3R（リデュース・リユース・リサイクル）の促進は必要不可欠となっていて、ごみ減量化及びリサイクル率向上の実現に向けた施策を図りました。ただし、平成27年度のごみリサイクル率は目標値20.0%に対して実績値12.4%であり目標を達成できていないことから引き続き目標達成に向けて取り組みます。